



平成 26 年 2 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成 25 年 10 月 10 日

上場会社名 ディップ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2379

URL <http://www.dip-net.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 CEO (氏名) 富田 英揮

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長

(氏名) 渡辺 永二

(TEL) 03 (5114) 1177

四半期報告書提出予定日 平成 25 年 10 月 15 日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有・無

四半期決算説明会開催の有無 : 有・無 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成 26 年 2 月期第 2 四半期の業績 (平成 25 年 3 月 1 日～平成 25 年 8 月 31 日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26 年 2 月期第 2 四半期	5,921	35.1	309	—	293	—	114	—
25 年 2 月期第 2 四半期	4,383	△15.5	△156	—	△163	—	△113	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26 年 2 月期第 2 四半期	10.40	10.38
25 年 2 月期第 2 四半期	△10.18	—

平成 24 年 9 月 1 日を効力発生日として、普通株式 1 株につき 100 株の割合で株式分割を実施しております。そのため、1 株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益につきましては、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して算出してしております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26 年 2 月期第 2 四半期	6,218	3,493	56.2
25 年 2 月期	5,830	3,459	59.3

(参考) 自己資本

26 年 2 月期第 2 四半期 3,493 百万円

25 年 2 月期 3,459 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25 年 2 月期	—	0.00	—	8.00	8.00
26 年 2 月期	—	0.00	—	—	—
26 年 2 月期(予想)	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有・無

3. 平成 26 年 2 月期の業績予想 (平成 25 年 3 月 1 日～平成 26 年 2 月 28 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	11,967	30.9	1,000	302.5	962	312.0	500	711.2	45.25

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有・無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有・無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有・無

② ①以外の会計方針の変更 : 有・無

③ 会計上の見積りの変更 : 有・無

④ 修正再表示 : 有・無

(注) 詳細は、【添付資料】4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年2月期2Q	12,400,000株	25年2月期	12,362,000株
26年2月期2Q	1,326,700株	25年2月期	1,326,700株
26年2月期2Q	11,043,202株	25年2月期2Q	11,170,317株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は、平成25年10月15日(火)に当社ホームページに掲載予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報等	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済情勢は、新政権の経済政策への期待感から、円高の修正、株価回復、企業収益が改善するなど景気は着実に持ち直しており、本格的な景気回復への期待感が高まってまいりました。

国内の雇用情勢につきましては、平成25年8月の完全失業率(季節調整値)は4.1%と、前月比0.3ポイント悪化するものの、有効求人倍率(季節調整値)は前月比0.01ポイント上昇の0.95倍となり、2008年5月以来、5年3カ月ぶりの高水準を示す等、回復基調が継続しております。

失業率の悪化の原因について総務省では、非労働力人口(季節調整値)が前月比15万人減少したほか、自発的離職が8万人増加するなど、雇用環境の改善を背景に労働市場に参入する動きや、よりよい職を求める動きが出ている結果と分析しております。

このような環境のなか、求人広告事業を展開するメディア事業のアルバイト求人情報サイト「バイトルドットコム」におきまして、媒体力強化のための新機能、新サービスを展開するとともに、過去にない積極的なプロモーション活動を実施してまいりました。

また、エージェンツ事業におきましても、看護師集客力向上のための新たなサービスを展開し、事業の強化を図ってまいりました。

これらの施策が奏功したこと及び景況感の回復による顧客の求人需要の高まりを受け、当第2四半期累計期間の売上高は59億21百万円(前年同四半期比35.1%増)となりました。

営業利益、経常利益につきましては、売上高の堅調な推移に加え、販管費の効果的使用等により、営業利益は3億9百万円(前年同四半期は営業損失1億56百万円)、経常利益は2億93百万円(前年同四半期は経常損失1億63百万円)となりました。なお、四半期純利益は1億14百万円(前年同四半期は四半期純損失1億13百万円)となりました。

また、社会貢献活動の一貫として、5月31日より、当社サービスによる従業員募集時の時給アップを支援する『レイズ・ザ・サラリーキャンペーン』を実施しております。同キャンペーンは、日本銀行が発表した物価上昇率2%の導入目標に対して、正社員のみならずアルバイト・パート等の非正規社員の給与増加も目指すべく、当社媒体への求人広告の掲載の際、当社採用コンサルタントより、お取引先に対して従業員募集時の給与アップについて交渉し、ご賛同いただいたお取引先の求人情報には『Raise the Salary』のマークを表示し、給与が上がっていることを求人広告サイトにてアピールするキャンペーンとなります。これにより、日本経済の活性化を支援し、社会的な問題解決の一助となるよう取り組んでおります。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

①メディア事業

メディア事業におきましては、求人広告事業である「バイトルドットコム」、「はたらこねつと」、「ジョブエンジン」及び「その他」事業を運営しております。

「バイトルドットコム」におきましては、勤務先の“見える化”をコンセプトに『制服閲覧機能』を搭載するとともに、『バイトル制服なりきりカメラ』アプリのサービスを提供開始した他、仕事内容を分野別に掲載した新サイト、「カラーバイトル」を開始し、働きたい分野が特定されている志向性の高いユーザーに対して各分野で豊富な情報を揃え、媒体力の強化を図ってまいりました。

さらに、当社イメージキャラクターである女優の上戸彩さん出演のTVCF放映の他、新たにアーティストのKREVA(クレバ)さんを起用したTVCFを放映し、新サービス及び新サイトの大型プロモーションを実施し、認知度の向上及びユーザー基盤の強化に努めてまいりました。

また、同サイトにおきましては毎年8月10日を「バイトルの日」として、一般社団法人 日本記念日協会へ申請し、正式に記念日として登録されております。平成14年の開始以降、業界初の機能やサービスを提供しており、今後もアルバイト求職者を応援し、さらに沢山の方に利用されるアルバイト求人情報サイトとなるよう努めてまいります。

「はたらこねっと」におきましては、検索機能の充実及び応募時の機能を改善することで利便性向上に努めてまいりました。また、応募獲得の効果が高いWEB広告を中心に広告宣伝活動を展開し、認知度の向上及びユーザー基盤の強化を図ってまいりました。

上記施策とともに、販売強化に努めることにより、「バイトルドットコム」、「はたらこねっと」の契約社数及び情報掲載件数の拡大に注力してまいりました。

これらにより、当セグメントにおける売上高は46億29百万円(前年同四半期比21.1%増)となりました。セグメント利益は大規模広告宣伝活動を実施した影響により7億68百万円(前年同四半期比13.2%減)となりました。

②エージェント事業

エージェント事業におきましては、「ナースではたらこ」サイトへご登録いただいた転職を希望される看護師へ、医療機関を紹介する人材紹介事業を運営しております。

同事業では、「看護の日」である5月12日に、看護師のための会員制特典割引サービスとして、新サイト『パンダクラブ』を開設し、セミナー開催や学習コンテンツの無料提供等、転職以外の場面において看護師を支援するとともに、登録者数増加に向けた基盤強化を図ってまいりました。

さらに、当社サービスを通じて転職し、入職後半年間の就業及びアンケート回答者を対象に『Happyボーナス』として最大10万円を支給することで、転職先での長期勤務を後押しするとともに、看護師の満足度向上、登録者の拡大に努めてまいりました。

また、看護師からの転職相談に対応するキャリアアドバイザーの育成にも注力し、事業の拡大を図ってまいりました。

これにより、当セグメントにおける売上高は12億92百万円(前年同四半期比130.5%増)、セグメント利益は1億87百万円(前年同四半期はセグメント損失3億60百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期累計期間末における資産は、前事業年度末と比較し3億88百万円増加し、62億18百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加1億53百万円、売掛金の増加2億14百万円によるものであります。

負債につきましては、前事業年度末と比較し3億54百万円増加し、27億25百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の増加1億31百万円、流動負債のその他に含まれる未払金の増加2億76百万円及び借入金の返済により1年内返済予定の長期借入金が2億41百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前事業年度末と比較し、34百万円増加の34億93百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加26百万円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前第2四半期累計期間末と比較し3億42百万円増加し、21億34百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は8億86百万円（前年同四半期比44.3%増）となりました。これは主に税引前四半期純利益2億93百万円、減価償却費3億42百万円、その他の負債の増加額3億87百万円が売上債権の増加2億13百万円、法人税等の支払額61百万円を上回ったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は4億12百万円（前年同四半期比16.4%減）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出49百万円、無形固定資産の取得による支出4億14百万円が敷金及び保証金の回収による収入83百万円を上回ったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は3億20百万円（前年同四半期比34.2%減）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出2億41百万円、配当金の支払額87百万円によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成26年2月期の業績予想につきましては、平成25年9月13日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」の内容から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる当第2四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成25年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,981,322	2,134,916
売掛金	1,080,187	1,294,718
仕掛品	1,592	811
その他	341,814	342,673
貸倒引当金	△88,625	△103,082
流動資産合計	3,316,292	3,670,036
固定資産		
有形固定資産	306,970	364,251
無形固定資産		
ソフトウェア	1,651,895	1,481,807
その他	2,208	242,703
無形固定資産合計	1,654,103	1,724,510
投資その他の資産		
その他	478,658	422,737
貸倒引当金	△8,352	△7,267
投資その他の資産合計	470,306	415,470
固定資産合計	2,431,380	2,504,232
繰延資産		
開発費	82,539	44,444
繰延資産合計	82,539	44,444
資産合計	5,830,212	6,218,713
負債の部		
流動負債		
買掛金	121,972	138,508
短期借入金	1,000,000	1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	446,700	205,600
未払法人税等	72,568	204,312
返金引当金	40,302	43,160
資産除去債務	26,211	—
その他	546,919	924,519
流動負債合計	2,254,673	2,516,100
固定負債		
資産除去債務	87,755	132,573
その他	28,452	76,556
固定負債合計	116,208	209,129
負債合計	2,370,881	2,725,230

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成25年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,081,200	1,085,000
資本剰余金	1,131,709	1,135,509
利益剰余金	1,741,535	1,768,087
自己株式	△495,113	△495,113
株主資本合計	3,459,330	3,493,483
純資産合計	3,459,330	3,493,483
負債純資産合計	5,830,212	6,218,713

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
売上高	4,383,593	5,921,565
売上原価	663,847	803,765
売上総利益	3,719,746	5,117,799
販売費及び一般管理費	3,876,635	4,807,915
営業利益又は営業損失(△)	△156,889	309,884
営業外収益		
受取利息	137	134
貸倒引当金戻入額	11,125	—
受取保険金	856	1,142
未払配当金除斥益	1,085	1,148
その他	2,646	1,586
営業外収益合計	15,851	4,010
営業外費用		
支払利息	8,644	5,493
シンジケートローン手数料	12,024	13,100
その他	1,885	1,336
営業外費用合計	22,555	19,930
経常利益又は経常損失(△)	△163,593	293,964
特別損失		
固定資産除却損	56	0
特別損失合計	56	0
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△163,650	293,964
法人税、住民税及び事業税	6,852	192,309
法人税等調整額	△56,813	△13,180
法人税等合計	△49,960	179,129
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△113,689	114,835

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△163,650	293,964
減価償却費	276,427	342,834
繰延資産償却額	38,095	38,095
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△31,082	13,372
返金引当金の増減額 (△は減少)	△8,556	2,858
受取利息及び受取配当金	△137	△134
支払利息	8,644	5,493
シンジケートローン手数料	12,024	13,100
固定資産除却損	56	0
売上債権の増減額 (△は増加)	1,167,742	△213,445
仕入債務の増減額 (△は減少)	△101,126	16,536
前受収益の増減額 (△は減少)	△6,153	34,571
その他の資産の増減額 (△は増加)	△9,570	△44,644
その他の負債の増減額 (△は減少)	△196,207	387,357
その他	△36,070	65,801
小計	950,437	955,761
利息及び配当金の受取額	137	134
利息の支払額	△8,204	△6,185
シンジケートローン手数料の支払額	△1,649	△1,637
法人税等の支払額	△326,270	△61,130
営業活動によるキャッシュ・フロー	614,449	886,942
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△71,815	△49,877
無形固定資産の取得による支出	△422,500	△414,728
敷金及び保証金の差入による支出	△38,250	△5,317
敷金及び保証金の回収による収入	38,952	83,935
資産除去債務の履行による支出	—	△26,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	△493,614	△412,488
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△122,985	—
長期借入金の返済による支出	△274,400	△241,100
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	7,600
配当金の支払額	△89,983	△87,361
財務活動によるキャッシュ・フロー	△487,368	△320,861
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△366,533	153,593
現金及び現金同等物の期首残高	2,158,538	1,981,322
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,792,004	2,134,916

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期累計期間(自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注) 1	四半期損益計算書 計上額(注) 2
	メディア事業	エージェント事業	計		
売上高					
外部顧客への 売上高	3,822,810	560,783	4,383,593	—	4,383,593
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	3,822,810	560,783	4,383,593	—	4,383,593
セグメント利益 又は損失(△)	885,480	△360,979	524,500	△681,390	△156,889

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△681,390千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、これまでセグメント区分を「バイトルドットコム」「はたらこねっと」「ナースではたらこ」「ジョブエンジン」「その他」としておりましたが、第1四半期累計期間の組織変更に伴い、従来「バイトルドットコム」「はたらこねっと」「ジョブエンジン」「その他」としていた区分を「メディア事業」に統合し、「ナースではたらこ」を「エージェント事業」に変更しております。これに伴い共通経費の配賦についても一部見直しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注) 1	四半期損益計算書 計上額(注) 2
	メディア事業	エージェント事業	計		
売上高					
外部顧客への 売上高	4,629,060	1,292,505	5,921,565	—	5,921,565
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	4,629,060	1,292,505	5,921,565	—	5,921,565
セグメント利益	768,780	187,769	956,550	△646,666	309,884

(注) 1. セグメント利益の調整額△646,666千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。